

平成25年度 第2回福井市行政改革推進委員会 会議概要

- 1 開催日時 平成26年2月25日（火） 15:00～16:40
- 2 開催場所 市役所第2別館2階 第22会議室（B）
- 3 出席者
 - (1) 委員 中山義壽 委員（委員長）、稲葉明美 委員、今村善信 委員、内山秀樹 委員、岡嶋優子 委員、奥村清治 委員、菊祥行 委員、田村洋子 委員、西田幸子 委員
※欠席：南保勝 委員（副委員長）
 - (2) 福井市 外部点検にて「再構築」「拡大」「維持(要改善)」と評価された14事業の所管所属
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 会議次第
 - (1) 開会（市民憲章唱和）
 - (2) 協議 ・平成25年度外部点検結果に基づく対応について
 - (3) 閉会

5 協議の概要

委員長	まず、協議事項「平成25年度外部点検結果に基づく対応」について、事務局から説明をお願いします。
総合政策室	【説明】
委員長	ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。
委員	せっかく関係所属に出席していただいたので、拡大や前向きな取組内容となっている事業に関して、どういう議論をしたのか聞かせて欲しい。例えば、文化財保護センターについては、おもしろいことをやってもらいたいという期待をもって評価させてもらった。対応についても、予算は増やさず、メニューは盛りだくさんに取り組もうとしているようだ。
委員長	「再構築」や「拡大」と評価された事業について、コメントを頂きたい。文化財保護センターは、補足やコメントなどはないか。
文化財保護センター	今回、「拡大」という評価をいただいた。文化財保護センターでは、発掘調査が大きな業務となっている。発掘調査と照らし合わせ、今後、センターをどうPRしていくのかと考えたとき、市民サポーターを作っていくことが一番重要と考えた。センターのファンを増やさなければならない、繰り返し来ていただく方を作っていかなければならない、というのが、今回の取組の大きな柱となっている。

<p>委員長</p>	<p>文化財というとは触っていけないイメージがあるが、ルールのもと、どんどん触っていただきたい。来て触っていただくことで、共感し理解してもらうことを主旨としている。施設のPRは、実は各館共通の問題である。自然史博物館や歴史博物館等と協議会を設けており、その中で取り組んでいこうと進めている。共同でイベントをしようという話も進んでいる。</p> <p>デジタル化については、昨年度でようやく4万点をデータ化した。今後、どう使っていくか、精査していかねばならない。</p> <p>「学校図書館支援員事業」について、補足などがあればお願いしたい。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>外部点検で、現在の人数で全部の学校をまわることができないだろうか、とご意見をいただいた。現在20人の支援員で、学校は69校ある。20人で3校ずつまわっても、60校しかまわれない。委員からの意見を基に検討した結果、支援員を2名増員できることとなった。現在、旧美山地区と国見地区には支援員は配置しておらず、旧美山地区と国見地区は、どちらも学校規模が小さい。美山地区には4校あるが、うまくローテーションを組むことで4校まわれるだろうと支援員からも意見があった。国見地区（国見・越廼・殿下）も5校あるが、ローテーションすれば大丈夫だと支援員より意見をもらっている。ただし、福井市街から行くのは大変なので、学校の近くに住民にお願いしなければならない。学校の近くに住民で支援員を引き受けてくれそうな人がいると校長先生から伺って、目処がついた状況である。22名の支援員で、来年度69校をまわることになった。当初予算が発表になった時点で、既に教員から問い合わせがあり、全校配置を喜んでくれている。</p>
<p>委員</p>	<p>支援員の役割は非常に大きいと聞く。</p>
<p>委員</p>	<p>支援員のいる学校といない学校とでは図書室が全然違うと聞く。全校配置となり、よかったと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>交通費については、まだ対応されていないようだが、将来的には対応をお願いしたい。</p>
<p>委員長</p> <p>観光推進課</p>	<p>「越前海岸体験・体感観光推進事業」について、どうか。</p> <p>結果・意見をどのように反映したかだが、ポスターについては、JR駅だけでなく、高速道路のサービスエリア4ヵ所にも掲出することとした。</p> <p>また、夏休みに行っていた広報活動について、通年でやってはどうかとの意見をいただき、地元の事業者等とも話をしたところ、「夏休みは人が来るので、その他の季節でも広報活動をやりたい」との意見があったため、来年度は、夏休みだけに限定しない取組をしたいと考えている。また、ポスターの効果については、外部点検でも質問があった。実は、観光推進課では、事業別、イベント別、施設</p>

	<p>ごとに、バラバラにポスターを作っていたが、これを一つの事業にまとめて、1年間同じコンセプトで作り続ける。また、送り先も、季節ごと、イベントごとに違うところへ送っていたが統一的に送るよう、事業の組み立てを変えた。</p> <p>関連事業についてだが、体験・体感キャンペーンで地域の方々とメニューを考え、旅行商品的なものを作る手法を行ってきた。近年の修学旅行は、観光地を見てまわるだけではなく、体感できるというのが大事だ。福井市内で修学旅行の実績はない。修学旅行は子供の心に長く残る行事であることから、修学旅行で行った福井は良かったと大人になっても思い出が残ることを考え、関連事業として修学旅行を積極的に呼び込んでいくこととした。</p>
委員	<p>最近の若者は出かけようとする際はインターネットで検索することが多いことから、インターネット等の媒体も利用した方がよいと点検の際にも話があったと思うが、ポスターは、ホームページにも載せているのか。</p>
観光推進課	<p>ホームページで、様々なイベントの情報を提供している。現在はイベントごとにポスターがあるという状況だが、今後は、一箇所で四季折おりおりのイベントがわかるよう、今、福井ではどういう景色やイベントがあるか見られるように、統一的に提供していきたいと考えている。</p>
委員	<p>内容についてではないが「折織のポスター」という言葉について、通常の漢字ではない。何か思いが込められているのではないか。“折織”とした理由を教えてください。</p>
観光推進課	<p>季節ごとに折々のものを提供していこうという思いと、さまざま多様なものをその季節に応じて提供していこうという言葉の掛け合わせて、造語をつくったものである。</p>
委員	<p>是非、いろいろなものを発信していただきたい。</p>
委員	<p>他市とも連絡をとり、進めていってもらいたい。</p>
委員	<p>教育旅行の誘致についてだが、修学旅行の誘致は受け入れる側からすると非常に疲れる。受け入れる側の体制作りや理解もきちんとなしないと、受入が嫌になる可能性がある。グリーンツーリズムなどの個人の民泊は、本当に来たい人が来るが、修学旅行は来たくない子どもも来るためそういった子どもを受け入れると、受け入れる側が疲れてしまうこともある。越前海岸を中心とした地域の方々の元気が出る取り組みを行っていかないと、意味がない。何千人が来た、だけの話ではない。そのあたりも十分に配慮しながらお願いしたい。</p>
委員長	<p>その他、質問はないか。</p>

委員	「アクティブスペース管理事業」についてだが、給排水施設の充実を図るとあるが、予算ではどう反映しているのか。どのようなかたちで給排水施設の充実を図るのか。
都市整備室	関連事業の「まちなか賑わい創出事業」の25年度予算390万円に対し、26年度では446万円になっており、差額の56万円が、給排水施設を充実させる分だ。
委員	いつでも使える設備を駅前通りにつくるのか、それとも4回やるイベントごとに補助という形か。
都市整備室	駅前の電車通りでまちフェスを実施するにあたり、恒久的な給排水施設を設けるとなると大きな事業費を要することになる。各イベントを実施する段階で、仮設の給排水設備を設けるものである。
委員	50万円で4回分は難しいのではないかと。もっと予算をつけてもよかったのではないかと。何にどれだけお金が掛かっているのか聞いてみると、今後の予算も変わってくるのではないかと。
都市整備室	食の充実がイベントの賑わいに結びつくものだと思っているが、仮設の給排水をたくさん設置すると、通行者が躓きやすいなどの課題がある。現状ではこれだけの予算だが、状況を見ながら今後の課題としたい。
委員	「緑と花のふるさとづくり事業」について、消耗品費や原材料費を増やしたのはなぜか。
林業水産課	プランターを並べ、プランターカバーを作りたいということで増えた。これは国体に向けても使えるものなので、ご理解をお願いしたい。
委員	先日、市役所に木の建材でつくったプランターなどが展示されていたが、雨に対してはどうか。それを使うことは考えていないのか。
林業水産課	屋外の展示でも耐えられる、雨などに強いものがないか、今後検討したい。
委員	「職場内共同参画推進事業」について、簡単に言えばアオッサで料理教室をしているような事業に思われる。本当に職場内共同参画推進事業なのかわからない。企業に出向く方がよいのではないかと。具体的に、各企業内、事業者に対し、どういう職場内の共同参画の推進をやっていくのか、抽象的でわかりにくいのでお聞きしたい。
男女共同参画・子ども家庭センタ	事業名の中に職場内という言葉が入っているので、そのような意見が出たのだと思う。実際は、企業に出向き講座を行っているのではなく、一般市民を対象と

一	<p>した事業であった。現実に合わせた事業名に変更をさせていただきたい。企業に出向く事業を新たに創設したが、実際、事業所に行って従業員を縛るということになるので補償問題などが出てきてしまうため、26年度は、商工会などの理事会の後で時間をもらい、事業者に男女共同参画啓発の話をさせてもらいたいと思っている。</p>
委員	<p>事業名を変更し、職場内という言葉無くしたことは、その分が後退したような印象を受けるが、職場内における男女共同参画の意識啓発を目的にした講座を事業者に対して実施するという項目が入っているので、職場内も意識して推進していただけると理解した。</p> <p>全体として、委員の意向を汲んで予算に反映していただいたと感じた。「有害獣捕獲推進事業」の中で、捕ったイノシシを有効に活用するという意見があったが、具体的にはどういったことか。罠の設置が増加しているが、捕獲した肉を有効に活用する予算がついてないように思うが、いかがか。</p>
林業水産課	<p>現段階で、市役所地下食堂でジビエ料理を作ってもらうなどの取組は行っているが、施設を造らないとなかなかジビエが推進できない。猟友会等とも、どういった取組ができるか検討していきたい。殿下地区にはジビエの加工場があり、そこで取り組んでいるのだが、流通が少ないのが現状だ。広く市民にジビエ料理をPRしながら、普及に努めたい。県内では嶺南で大規模な施設ができたが、福井市だけの取り組みは難しい。他の市町とも協力していきたい。</p>
委員	<p>テレビで殿下地区の施設を観たので、それが反映されたら良いと思っていた。</p>
林業水産課	<p>殿下地区でも、施設はまだ一つだけだ。今後需要が増え、他の地区でも施設が欲しいというのであれば増設も考えられる。</p>
委員	<p>すでに実施しているところが、殿下地区にも、個人的にもあるので、施設が無くても工夫をしたらどうか。</p>
林業水産課	<p>平成26年度の新たな事業として、関連事業だが、ジビエ普及推進事業を行う。大学生などからアイデアをもらいながら、ジビエ料理の創作をしていきたいという予算も盛り込んである。</p>
委員	<p>罠の設置数を増やしたのは良い。だが、猟友会の人に聞いたところ、福井市は禁猟区が多い。罠にかかって捕獲されたイノシシを、何人かで軽トラに積み、また山奥地で放してしまうという話も聞く。それではイノシシが減らない。捕獲されたイノシシはどういう処理をされているのか。</p>
林業水産課	<p>熊の場合、人的被害をもたらしたことの無い初めて檻にはいった熊は、山奥に連れて行って放す。その熊が、再度捕まったら射殺する。熊の処分は、クリーン</p>

	<p>センターで燃やす。イノシシは、地区の協力で埋設するのが基本だ。だが、埋めるところも少ないという地区も出てきた。処分は本当に難しく、一番危惧されている。なるべく切断して燃やしたい。射殺なりとめ刺しをして埋めるのが基本だ。</p>
委員	<p>猿もそうか。</p>
林業水産課	<p>猿はなかなか捕まらない。猟友会も、猿だけは人間と一緒に動作をするので殺されないと言う。猿の捕獲が一番難しい。</p>
委員	<p>福井市だけの問題ではない。市だけでなく、国や県全体で連絡をとって努力してほしい。</p>
委員	<p>「ガス器具等販売・修繕事業」について、非常勤職員を1人減らし、事業を縮小しているが、福井市では何所帯がガスをひいているのか。今後の方向性は「維持」となっているが、だんだん縮小していくと、どうなっていくのかその辺を確認したい。</p>
総合政策室	<p>非常勤職員の人件費が、販売・修繕費の中に入っている。全体的にはガスの普及率は都市ガスの供給区域の中で49.4%であり、平成24年度末では、世帯数は23,246戸である。おっしゃるとおり、オール電化等でどんどんガスを利用する世帯が減ってきているが、取り組みとしては少しでもコストを減らすなど経営工夫を行っている。一般家庭の需要を増やすことは難しいが、コストが削減できると、大きな工場などでガスを活用していただいている。</p>
委員	<p>「ビジネスマッチング・技術交流支援事業」については、当たり前のことを書いてあるだけに思える。委員会が求めていた具体的な手法を検討していただいていたのか疑問だ。福井が好きだとか、福井の人を好きになってビジネスを一緒にやろうとか、ものづくり、人づくり、繋がりづくりについて情報発信してPRすることが福井市として必要なのだということを委員は言っていた。他の市町との差別化をはかり、福井らしさを発信できるよう取り組んでほしい。その手法を求めていたが、具体的な内容が示されていない。</p>
商工振興課	<p>なかなか厳しいご意見をもらった。「ビジネスマッチング・技術交流支援事業」は、中小企業者等に対するさまざまな支援をしている中の一つの事業として、なかなか一企業だけでは交流できないという企業を集めて他市に行きマッチングを行っていこうという主旨の事業である。本事業は24年度からの実施の1年目の事業である。フォローアップとしては、マッチング終了後1、2ヶ月してから、商談がどうなったのか、何が足りないかなど、企業に個別に聞き取りをしている。福井らしさを発信するとは違うかもしれないが、地道に企業毎に話しを聞くなど、行政や商工会議所ができることを一つ一つ丁寧にやっている。新年度は、企業に事前にどういうところとマッチングしたいか、広く聞く予定である。丁寧に</p>

委員	<p>取組み、来年度末で3年経った上でこの事業が中小企業者の支援でどう効果があるか判断していきたい。ご理解いただきたい。</p> <p>大変よい答えをしていただいた。何年間かこの委員をやって、福井らしさとか、福井と他の市町村との差別化との流れの中で、横の連携がだんだん見えてきた。ビジネスマッチングは本当に難しい話だと、ずっと委員の中でも言っていた。ビジネスマッチングをしていく中でも、福井についてPRしていただきたい。単なるビジネスの話ではなく、福井としてのビジネスであるという情報発信を強く意識しながら、交流イベントや支援をしていただければよい。この事業の中だけで福井らしさを出すというのは難しい。確実に改善し、結果を出しながら、横の連携も深めていただきたい。</p>
委員	<p>「コミュニティ活動支援事業」について、自治会のコミュニティに、市が介入するのは難しい。地域コミュニティ活動を疎外している要因を探り、それを取り除き、互いに連携協働し、地域の課題に取り組むことが、地域の活性につながることから、市が側面的な支援を行い主体となることが必要と考える、ということで、市が行う必要性を強く説いていただいた。そこで、平成24年度末を以って3年が経過することから、検討委員会を設置して「自治会への依頼業務の見直し」、「自治会の組織基盤・運営基盤の強化」、「自治会への加入促進」を平成25年度に実施していただき、我々の方で点検をし、要改善という結果を出した。若い世代を対象とし、自治会の必要性を周知することに関しては、保護者をターゲットにやっていたいているみたいだ。②の若手リーダーの育成に関して、要改善ということで記載しているが、予算に反映されるものではないと私も思うが、平成25年度と平成26年度とで全く同じ項目となっている。担当課でどのように考えているのか教えてほしい。</p>
行政管理室	<p>②の若手リーダーの育成だが、確かに26年度の予算には直接は反映していない。行政は各地区自治会連合会長を通して、市自治会連合会と繋がりをもっており、共同で研修会を行っている予算は、市自治会連合会の予算執行というかたちで、そこに行政が参加させていただくというかたちで今後検討を進めていきたい。</p>
委員	<p>二つ質問がある。情報研修会を実施したとのことだが、どういう内容か。各種団体支援員配置補助金が25年から半分になったが、ニーズが無くなってきたからなのか。</p>
行政管理室	<p>情報研修会の実施は、昨年10月30日に自治会連合会長が集まる機会があり、市の情報課の職員がネーミングリストの活用やSNSの利用方法について講習を行った。</p> <p>2点目の質問の、各種団体配置補助金についてだが、これまでの補助実績も確かに下がってきている。取り組む地区も少なかった。創設当初から3年後に見直</p>

	<p>すということであったので、見直し検討会で 26 年度以降は廃止ということになった。3 年継続の補助金なので、26 年度の予算にも計上している。</p>
委員	<p>ネーミングリスト、SNS という IT 通の言葉がでてきた。我々委員も平均年齢では自治会長と近いと思うが、活用となるといかがか。</p>
委員	<p>自治会連合会としての立場で補足を行うと、書類作りや新しい役員への引継ぎが、従来の手法では大変だということで研修を行った。各地区の自治会長は、理解されていると思う。市内 48 地区によって人数や自治会の加入率にも差があるため、自治会の規模や地区ごとに分けて行った。地域や世帯数に分けて情報交換をしたので、為になったと思う。</p>
委員	<p>先ほどの共同参画推進講座について、実際にやれるのか不安に思う。このままだと先方の都合で出来ない、といったこともあるのではないかと。せっかく考えてもやれないとなると、大変残念なことになる。できるだけ早めに、商工会議所や商工会青年部と、内容や所要時間などについてコミュニケーションをとっていただきたい。</p>
男女共同参画・少 子化対策室	<p>商工会議所とも話し、年間スケジュールの中で 7 月が一番空いているということも聞いた。内容としては、女性の社会参画を中心にやっていきたい。詳細は新年度に入ってから決めていきたい。</p>
委員長	<p>非常に有意義な意見を出していただいた。今後おおいに参考にし、進めていただければ幸せだ。</p> <p>以上で本日の会議を終了する。ありがとうございました。</p>